

## ライフジャケット着用率100%を目指して！

—ライフジャケット着用推進活動の取り組み—

釜石湾漁業協同組合平田女性部  
佐藤美智子

### 1. 地域の概要

岩手県釜石市は、リアス式で有名な三陸海岸に位置する人口約4万人の近代製鉄発祥の街である(図1)。私たちの住む平田地区は、平成20年に完成した「釜石湾口防波堤」によって静穏な海となった釜石湾の湾奥に位置している。

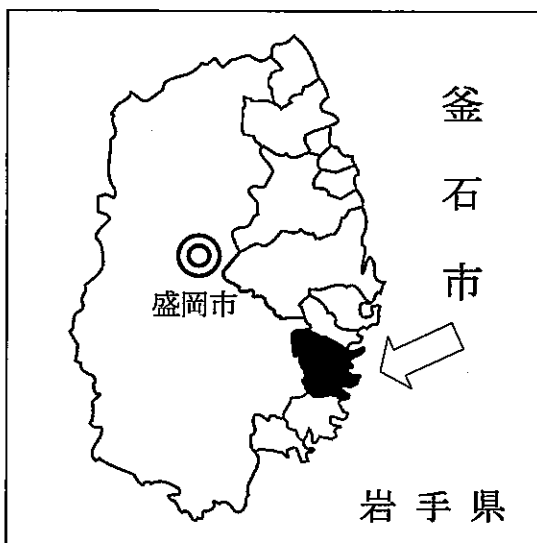


図1 岩手県釜石市の位置

### 2. 漁業の概要

釜石湾漁協は、平成15年に、釜石、平田、白浜浦の3漁協が合併して出来た漁協で、旧平田漁協が本所となっている。私たちが所属する平田地区の組合員は、正組合員182名、準組合員62名、計244名で、正組合員のうち女性は49名を占めている。

平田地区では、世界最大級といわれる「釜石湾口防波堤」によって静穏な海となった防波堤内側で、ホタテ養殖が盛んに行われている。太平洋の荒波が押し寄せる沖側では、ワカメ・コンブ養殖が行われるほか、アワビ、ウニの採介藻漁業も盛んである。

### 3. 研究グループの組織と運営

私たちは、昭和35年に平田漁協婦人部として設立され、平成15年の漁協の合併後も、旧漁協の女性部は独立しており、釜石湾漁協平田女性部として活動している。

設立当時は150名以上の部員がいたが、部員の高齢化などにより年々減少し、現在は38名で活動している。

### 4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

当地区で兼業漁家を含め多くの組合員が従事するアワビ漁は、11～12月に8日程度、ウニ漁は5～8月ごろに火曜日と金曜日の週2回で30日程度、解禁される。アワビ、ウニの良い漁場は、湾口防波堤外側の岩礁地帯にあるうえに、小回りが利く1トン未満の小型船による操業のため危険を伴う。ワカメ、コンブ養殖でも、夜中のまだ暗い時間から湾口防波堤の外側の養殖施設で作業するので危険である。

これまで、私たちは、疲労による海難事故を防ぐことなどを目的に、平成11年から11年間、毎月第3日曜日を一斉休漁にする取り組みを続けて来た。

平成 20 年 4 月から、1 人乗り漁船のライフジャケット着用が義務化されたこともあって、以前と比べればライフジャケットを着る人も増えたように感じていたが、近隣でライフジャケットを着用していれば助かったかもしれない事故が発生するなど、命を守るためにはライフジャケット着用が重要であることを改めて認識させられていたところだった。

平成 20 年 11 月に、女性部員 3 名が釜石海上保安部からライフジャケット着用推進員に委嘱されたことをきっかけに、ライフジャケット推進活動にも取り組むことにした。

## 5. 研究・実践活動状況及び成果(または効果)

### (1) 活動方針の決定

#### ア アンケート調査

今後、活動を進めるうえで、ライフジャケット着用実態を把握する必要があると考え、平成 20 年 12 月に、専業漁家が多い下平田地区の 33 漁家の女性部員を対象にアンケートを行った。

#### (ア) ライフジャケット漁船積込実態

「ライフジャケットを船に積んでいるか」を聞いたところ、「船に積んでいる」と答えたのは 33 名中 32 名の 97% だったが、「積んでいない」と答えた 1 名は「漁に出るとき一緒に持って行く」という回答だったので、全員が船に積んでいると解釈した。

#### (イ) ライフジャケット着用実態

ライフジャケットの着用実態を聞いたところ、「いつもライフジャケットを着ている」と答えたのは、33 名中 28 名の 85% だった。

ライフジャケットの漁船積込実態調査から、全員がライフジャケットを船に積んでいると考えられたので、ライフジャケットの着用率を上げるには、常に着用を意識してもらうよう、普及啓発用看板の設置などの地道な活動が欠かせないと感じた。

#### イ 目視調査

ライフジャケット着用の実態を、実際に目で見て調べようと、平成 20 年 12 月に、多くの組合員が操業するアワビ漁で、漁が終わり一斉に帰港する時間を見計い、ライフジャケットを着ている乗船者を数える調査を行った。

調査の結果、ライフジャケットの着用率は、140 名中 108 名着用で 77% であった。アンケート調査結果から考えて、最低でも 85% は下回らないだろうと考えていたが、残念な結果になってしまった。調査結果は、漁協に報告するとともに、全組合員にも配布した。

この調査で、たくさんの船を見て感じたのは、女性が乗っている船では女性はもちろん、男性の着用率も高いことである。女性は男性より規則をきちんと守る人が多く、女性がライフジャケットを着ていれば、お父さんたちもうっかり忘れることも少ない。さらに、女性の場合、お父さんや息子達に、忘れないで着よう呼びかける人が多いと思われる。私たち、女性部の活動は、「思ったより効果的なのでは」と感じた。

#### ウ 活動方針の決定

アンケート調査と、目視調査を通じて、ライフジャケット着用率 100% を目指し、2 つの活動方針を決めた。

(ア) ライフジャケット着用の普及啓発

アンケート調査から、ほとんどの船にはライフジャケットが積まれていると考えられたので、漁業者がライフジャケット着用を忘れないよう、常に意識させる活動が必要である。そのため、着用を呼びかける普及啓発用の看板を設置すること、釜石海上保安部との合同パトロールおよびパンフレット、ポスターの作成・配布を計画した。

(イ) ライフジャケットの正しい知識の習得

女性が周囲に与える影響は大きいと考えられたので、女性部員が正しいライフジャケットの知識を持つことが必要である。そのため、ライフジャケット取り扱い業者を講師に勉強会を行うとともに、漁船海難防止連絡協議会主催の海難防止講習会に積極的に参加することを計画した。

(2) 活動内容

ア ライフジャケット着用の普及啓発

(ア) 普及啓発用看板の設置

ライフジャケット推進員に任命された直後の平成20年11月に、まずは出来ることから始めようと思い、平田漁港内の3カ所に看板を設置していた。その他、漁業者の目に付きやすい場所はどこかと考え、漁協と信漁連支店の入口を思いついた。2つの入口は隣り合っていて、漁協には男性が、信漁連には主に女性が入り出ることが多いだろうと思い、平成21年7月に、漁協から助成をいただいて、2枚が背中合わせの看板を設置した。

その他には、8月に、手作りの看板を、専業漁家全ての作業場30カ所に取り付けた。組合員の中にはライフジャケットを着る気はないと公言する人たちが何人かいるのだが、全ての作業場に取り付けることを建て前としたので、そのような態度の人たちの作業場にも取り付けることが出来た。

(イ) 釜石海上保安部との合同パトロール

平成21年4月と10月に、ライフジャケット推進員の女性部員3名が保安部職員と一緒に、漁港でパンフレットを渡すなどしてライフジャケット着用を呼びかけた。

10月の合同パトロールでは、地元新聞(図2)やケーブルテレビの取材(図3)も受けたので、より効果的であったと考えている。



図2 岩手東海新聞記事



図3 かまいしケーブルテレビ取材

#### (ウ) 普及啓発用パンフレット、ポスターの作成

平成 21 年のアワビ漁前に、全アワビ漁操業世帯に対しライフジャケット着用を呼びかける手作りのパンフレット 2 種類、各 130 枚を作成し配布したほか、A 3 版のポスター 2 種類を 5 カ所の漁協掲示板等に掲載した。さらに、アワビ漁期中の 11 月にも、パンフレット 130 枚を配布した。

#### イ 正しい知識の習得

##### (ア) ライフジャケット勉強会

平成 21 年 2 月の女性部総会の際に、ライフジャケットを扱っている業者に講師をお願いして、勉強会を開催した。「体重によって浮力の差はあるの？」など、以前からの疑問を聞くことが出来て、女性部員の知識も深まったと思っている。

##### (イ) 海難防止講習会

平成 21 年 7 月に開催された海難防止講習会では、海難事故の事例紹介などの座学だけではなく、岩手県で初めてライフジャケットの効果を、実際に体験できる講習だということで、漁協の男性職員 3 名の他に、女性部員 1 名が漁業者代表としてただ 1 人、実際に海に落ち、ライフジャケットの効果を体験することが出来た(図 4)。



図 4 海難防止講習会

また、女性が海に落ちるということもあって、男性が岸壁にたくさん集まっていた。体力がない女性が、合羽や長靴を履いていても、ライフジャケットを着ていれば十分に浮いて、船に這い上がるのも楽になり、命が助かる確率が高くなることを印象付けられたと思っている。

#### (3) 取り組みの成果

このように、短い間の取り組み(表 1)だったが、その成果をみようと、平成 21 年 7 月のウニ漁と 11 月のアワビ漁の際に、目視によるライフジャケット着用実態調査を行った(図 5)。

7 月のウニ漁時の着用率が 104 名中 90 名着用で 87% となった。「7 月のウニ漁の時期は、12 月のアワビ漁の時期より暑いので、着ている人は少ないのでは？」と心配していたが、平成 20 年 12 月のアワビ漁のときが 140 名中 108 名着用で 77% だったので 10 ポイントの上昇である。そして、平成 21 年 11 月のアワビ漁では、136 名中 129 名着用で 95% (17 日)、135 名中 127 名着用で 94% (20 日) とさらに着用率が上昇した。調査では、漁港に向かって走り去る漁船の乗船者を目視により確認するため、合羽の下にライフジャケットを着ている人を見逃すことになり、着用率を下げている可能性がある。これを考慮すると、100% にかなり近い実績を挙げることが出来たと考えており、取り組んだ期間は短かったが、私たちの取り組みの成果があったと喜んでいる。

今回の取り組みで、初めて目視によるライフジャケット着用実態調査を実施したが、①最初の調査(H20.12)で、私たちが、普段、感じているよりも低い着用率になったことで、危機感を持って取り組むことが出来たこと、②調査で女性が同乗している船の着用率が高

いと感じたので、女性部が果たす役割が大きいと実感し、自信を持って活動に取り組めたことが、今回の成果につながったと思っている。

表1 ライフジャケット着用推進活動一覧

時期	活動種類	活動の名称	活動内容
H20.11	—	ライフジャケット着用推進員委嘱	女性部員3名委嘱
〃	普及啓発	普及啓発用看板設置	漁港周辺3カ所設置
H20.12	実態把握	アンケート調査	漁船積込・着用の実態調査
〃	〃	着用実態調査(第1回)	アワビ漁帰港時の目視調査
H21.2	知識習得	ライフジャケット勉強会	取扱業者を講師に招いて実施
H21.4	普及啓発	合同パトロール	釜石海上保安部と合同で実施
H21.7	知識習得	海難防止講習会	ライフジャケットの効果体験等
〃	普及啓発	普及啓発用看板設置	漁協・信漁連入口1カ所
H21.7	実態把握	着用実態調査(第2回)	ウニ漁帰港時の目視調査
H21.8	普及啓発	小型普及啓発用看板設置	専業漁家の作業場30カ所設置
H21.10	普及啓発	パンフレット配布(2種類、各130枚) ポスター掲示(2種類、各5枚)	全アワビ操業世帯130世帯 掲示板5カ所
〃	〃	合同パトロール	釜石海上保安部と合同で実施
H21.11	実態把握	着用実態調査(第3、4回)	アワビ漁帰港時の目視調査
H21.12	普及啓発	パンフレット配布(130枚)	全アワビ操業世帯130世帯

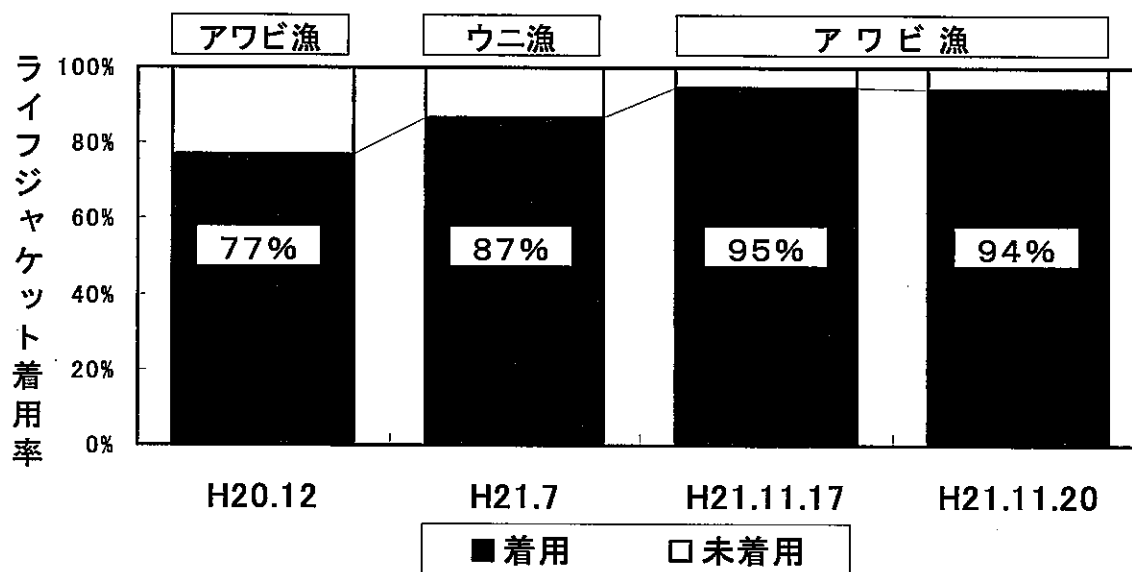


図5 ライフジャケット着用率の推移

## 6. 波及効果

私たちが、自前で普及啓発の看板を設置したことをきっかけに、漁協が他地区の4漁港にもライフジャケット着用を呼びかける普及啓発用看板を設置することになり、嬉しく思

っている。

また、平成21年11月のアワビ漁の際には、目視によるライフジャケット着用実態調査を釜石湾漁協に所属する3つの女性部で同時に実施しようと、白浜浦女性部と釜石女性部に呼びかけ、実施することが出来た。着用率は、白浜浦地区が142名中116名着用で82%、釜石地区が133名中120名着用で90%、当地区が136名中129名着用で95%という結果であったが、各地区の着用率が比較されることによって、各地区間で競争意識が強まり、釜石湾漁協全体で着用率が上昇して行くことを願っている。

#### 7. 今後の課題や計画と問題点

これまでの取り組みによって、着用率はかなり100%に近づいたと考えているが、今後は、11年間続けて来た一斉休漁のように、さらに地道な活動が続け「ライフジャケット着用率100%」を達成し、それを継続して行きたいと考えている。